

【評価】 A:目標を上回る達成 B:目標を達成または概ね達成 C:目標を達成せず D:目標を大きく達成せず

大項目	中項目	小項目	自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
			小項目評定	中項目評定	現況	中項目評定	意見・提言等	
Ⅰ 進んで学びやりとげる子	学習指導の充実	1 教材研究に努め、ICTを積極的に活用するなど、楽しくよくなる授業を進めた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 多くの教員がICTをただ使うだけではなく、効果的な活用をするようになってきている。 全国学力・学習状況調査や学び確認テスト等をもとに、指導方法の工夫、教材開発など進めた。 国語科研修、体育科研修、救命研修を実施し、指導力・教育力の向上に努めた。 研究授業を活発に行い教材開発、指導方法など職員が教育力向上に向けて研修をした。 夏休みの算数補充学習では参加者も多く、価値あるものとなった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今後のコミュニティスクールに向け、評価委員会で全国と比較した本校の学力のデータを提示し検討をした方がよい。 学びやすい環境、集中しやすい環境づくりに今後も努めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 論理的思考を深めるためプログラミングの学習も高学年を中心に先行実施していく。 学力調査の分析を生かし、本校課題に向けた全校統一の授業実践・家庭学習との連携を具体的に進めていく必要がある。 学力向上に関わる研修や若手教員への指導技術継承を意識した研修・授業研究を計画的に実施する。 夏休みの算数の補充学習は効果的で結果もでているので今後も引き続き実施する。
		2 基礎学力の定着を目指し指導体制を整え、指導方法の工夫に努めた。	B					
		3 指導力・教育力の向上を目指し、職員研修に努めた。	A					
	読書活動	4 読書の楽しさがわかるよう、教師による読み聞かせや本の紹介などを行った。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> お話し会による読み聞かせを今年度も計画通り実施できた。 委員会活動で図書室の利用を呼びかけた。 本年度は図書館司書、図書ボランティアによって本の整備が推進できた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 夏休みの宿題で読書感想文が選択制であったので今後、必須宿題にしてもよい。 教師の読み聞かせや縦割り交流による読み聞かせを行う。 学級文庫の充実も今後の課題である。 和邇図書館、移動図書館をさらに利用し、図書館利用教育を進める。 	
		5 読書環境・体制の整備や地域人材等の活用を行った。	A					
	学び合い	6 支持的風土を育てる学級・学年集団づくりを進めた。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 学年、学級で目標を立て、支持的風土づくりを進めた。 校内研究で「主体的な学びと伝え合い」を意識した授業改善に取り組んだことで、教員の力量を高めた。 全職員が公開授業をし、授業研究や教材研究に取り組んだ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 和邇は地域資源が豊富なので今後も教材として利用してほしい。 ペア学習、グループ学習、討論などを授業の中に取り入れ、更に子どもたちが主体的に友だちと深く考えながら課題を解決したりする授業を取り入れる。 教職員が全員、授業を公開し、指導力向上に努める。 地域とつながり、地域資源の教材開発を図る。 	
		7 協同する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善に努めた。	A					
		8 学び合いを追求する授業研究や教員研修に取り組んだ。	A					
Ⅱ 仲良く助け合う	道徳教育・特別活動の充実	9 生命を尊重する心や人権の尊重などの道徳的実践力を育てる指導を工夫した。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 人権の日を月一回設定し、校内放送を利用して豊かな心をはぐくむ教育を実践した。 副読本や「わたしたちの道徳」を元に、教材を整備した。 道徳の授業参観を今年度も実施した。 代表委員会や月1回の委員会を通じて、自主的・自治的な活動に取り組むことができた。 応援合戦やたわり遊びを通して、高学年があこがれられる存在として活躍することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> わが家のルールづくりを今後とも取り組んでほしい。 道徳的実践力をつけるには低学年での教育が大切になってくる為引き続き実践をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権の日の取り組みに、子どもたちが関わられるようにする。 道徳教科化実施に向けて、教員の研修を深める。 道徳の授業で用いた資料や学習指導案を、今後使えるように整理する。 学級活動や係活動を充実させ、いじめのない楽しい学校生活づくり学級づくりを進める。 児童会が中心となって児童会活動を進め、高学年としてのリーダーシップを育てる。
		10 道徳の授業公開を行い、積極的に資料開発・整備に努めた。	A					
		11 自治的能力を高めるため、学級活動や児童会活動など、発達段階に応じた適切な指導を行った。	A					
	生徒指導の推進	12 「3つのととのえる」に全教職員が一体となって取り組んだ。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 「3つのととのえる」は、継続して取り組み、子どもたちの意識が高まった。特にはきものをそろえることができている。 いじめ対策における未然防止の取り組みは充実してきた。 毎月実施しているアンケートが有効。すぐに対応するなど活用できている。友だちの良いところを記入することは有効である。 関係機関と連携して対応できている。 不登校児童に対する連携と職員全体の共通理解がもう少し深められたらいい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> いじめは見極めが大事。また、家庭や習い事でも学校でのことを引きずることもあるので今後も子ども達の見守りを希望する。 	<ul style="list-style-type: none"> よりよい人間関係を築いていくためにも子ども達が、場に応じた言葉遣いができるよう、全職員が指導していく。 いじめに対する全職員の意識改革や組織的な対応をさらに進める。 どのように保護者や関係機関と連携し、すすめているのか問題行動や不登校傾向児童への対応について、全職員で研修し、理解を深める。 スクールカウンセラーや関係機関との連携をさらに深め、教育相談体制を充実させていく。
		13 生徒指導・教育相談体制を確立し、いじめや暴力行為、不登校等の諸課題の早期発見、日常的な予防指導、3公3現の原則に基づいた対応に組織的に取り組んだ。	A					
		14 問題行動や不登校傾向児童に対して、保護者・関係機関と連携して取り組めた。	B					

大項目	中項目	小項目		自己評価			学校関係者評価		今後の学校改善に向けて
				小項目評定	中項目評定	現況	中項目評定	意見・提言等	
Ⅱ 仲良く助け合う	特別支援教育の推進	15	組織的・計画的な特別支援教育の体制づくりに努め、児童支援に役立てた。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 授業・教室掲示物のユニバーサルデザイン化に取り組んだ。 児童の実態によって特別支援教育支援員が特定のクラスでの支援となり全体のクラスとの連携がうまくとれていない。 個別の指導計画は作成されているものの活用となるとまだ十分とはいえない。 子どもや保護者が安心して相談できるように、スクールカウンセラーを積極的に活用し教育相談の充実を進めた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保幼小中の連携、申し送りなどがとても大切である。 特別支援教育は担任に任せきりだととても大変なので学校全体で取り組み、研修を進めていくべきである。 学校だけではなく、各専門機関との連携も大事になってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育のユニバーサルデザインに今後も取り組む（わかりやすい授業、人間関係づくり）。 特別支援コーディネーターを中心に、個別の指導計画の見直しや特別支援アセスメントを更に進める。 全職員の特別支援教育の専門性を高め特別支援教育を組織的、計画的に進める。 特別支援教育支援員を全てのクラスで活用できるようにしていく。
		16	校内委員会を組織し、支援を要する児童の指導計画を作成し、活用するよう努めた。	B					
		17	関係機関と連携した教育相談体制の充実に努めた。	A					
Ⅲ 健康で大きい子	体力作り	18	たくましい心と体を育てる魅力ある授業改善に努めた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 体育の職員研修を実施し、子どもたちが安全に運動に取り組めるように、指導法や支援の仕方を提案した。 運動会、チャレンジマラソン大会、縄跳び大会、体育委員会による企画等を実施し学校全体で体力向上につながる取り組みを行った。 子どもが主体的に運動に関わる授業展開ができるように、タブレットを使用した学習を実施することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 跳び箱等の器具を使った学習でけがが起こらないようにできるだけ複数体制で学習できる環境づくりに努めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が自らの記録に挑戦できるように環境を整え、運動する文化を創造していく。 教職員にアンケートをとり、指導しにくい領域、安全面の配慮を要する領域等を研修する。 教職員自ら子どもたちとともに体を動かして共感し、運動することの楽しさを伝えていく。
		19	運動に親しむ環境づくりや体力づくりに努めた。	A					
		20	体を動かす気持ちよさを体験させ、進んで体を動かそうとする意欲を育てた。	A					
Ⅳ 育ちを支える連携	家庭・地域連携	21	保護者に対して、子育てに対する支援や研修会を行った。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> PTAと協力し、講師を招き研修を実施した。また、学校保健委員会を夏休みに実施し保護者とともに研修した。 「ふれあい教室」をスタートし地域の方々子ども達がふれあう機会を設けることができた。 避難訓練を定期的実施し、防災教育の推進に努めた。 後援会・同窓会、PTAの協力を得て、各教室に加湿器を配備した。 今年度も地域の方の助けをいただき安全マップが実施できた。今年度からできた地域コーディネーターの役割により、地域との連携が密になった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達ができることを地域に活かし、地域に役立てるように導いてほしい。 子育てに悩んでいる保護者もいるため平成30年度は子育ての研修をぜひ実施していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ全体的には充実してきたが、学年のページの更新頻度に差がある。定期的な更新が必要である。 「ふれあい教室」を、今後、週2回の運営に向け地域の方々との連携を密にし、実施ができるよう進めていく。 安全マップを来年度も地域の方々やスクールガード等の地域諸団体と連携して取り組んでいく。 わが家のルールづくりに引き続き取り組んでいく。
		22	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会等実施に努めた。	A					
		23	防災教育の推進と安心・安全な学校づくりを進めた。	A					
	保幼小中連携	24	子どもの校種間交流や教員の出前授業等、積極的な連携に努めた。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 保幼小中連携事業として、音楽会に向けての練習参観(園児)、運動会参加(園児)、1年秋祭りの交流、保育体験、作品展参観(教師)、出前授業、一日入学での1年・5年との交流等、積極的に連携に努めた。 中学校との連携として児童会が比良山麓子ども会議に参加し、子どもの校種間交流をすすめた。 校区研では、部会の活動等に参加し、教職員の交流に努めた。 保幼小の合同研修(心肺蘇生法)を実施した 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保幼小の園児が参観する際普段の学習も参観できると良い。 中学校では家庭学習の内容が課題である。小学校時に習慣づけをしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 保幼小中連携事業では、行事の取り方を工夫したり、夏季休業を有効利用したりして、研修等を通して連携をさらに進めていく。 中学校区共通で取り組めることや連携を進めていく。
		25	校種間の合同研修会や教育内容等の交流に努めた。	A					
V 満足度	満足度	26	児童は学校に満足している（アンケート結果より）。	B		A	<ul style="list-style-type: none"> 基準を作った方が良い。 児童、保護者アンケートの結果を分析し、子ども達の学校生活にいかしてほしい 今後もCや、Dの評価が少なくなるように取り組みを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も児童アンケートを月1回のペースで実施し、子ども達の様子や思いを把握する。 子ども達が臆することなく自分の考えを伝えられるよう全校に支持的風土を更に育てる。 	

